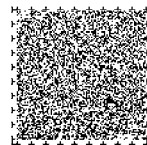




チームの勝利に貢献できるよう、マネージャーとして今よりもっと練習をサポートしていきたいです。

ありが

ヒューマンドキュメント



南さつま市立大笠中学校
軟式野球部マネージャー 1年

ありどめ こうき
[有留 昂生]さん

工夫次第で “できる”ことを

南さつま市立大笠中学校の1年生、有留昂生さんは、同校野球部初のマネージャーとして、豊富な野球知識と鋭い観察力を活かし、チームを支えています。

昂生さんが野球を好きになったきっかけは、小学2年生の時に祖父と一緒に観たプロ野球中継でした。しかし、脳性麻痺の影響で日常生活は車椅子で送っているの、何かできることを自分もやってみたいと思っていたそうです。

そのような中、野球部のマネージャーになるきっかけを作ったのは、2つ上の兄・蓮さんでした。当時大笠中学校の野球部員であった蓮さんは、顧問の中村先生に昂生さんのことを話したそうです。中村先生は、当時小学生だった昂生さんに「中学に進学したらマネージャーになってみないか」と声をかけました。昂生さんの入部について、中村先生は「これまで大笠中学校の野球部にはマネージャーというポジションはありませんでした。でも、野球が好きなのに環境が整っていないから参加できないというのは違うと思うんです。好きなことは、どんな形であ

れ、工夫次第で“できる”はずですよ」と振り返ります。

一歩踏み出して “やってみる”

中学に進学後、迷わず入部を決めた昂生さん。入部当初は「本当にチームの一員として受け入れてもらえるだろうか」という不安もあったそうです。ところが、そんな心配は不要で、チームの部員は昂生さんを最初から迎え入れてくれていました。

昂生さんが、マネージャーとしてまず必要だと考えたのは、スコアブックの作成でした。紙に記録すると時間がかかってしまうと考えて、両親に相談してタブレットを購入。試合中もタブレットを駆使してデータを分析し、ミーティングで部員へすぐに改善点を伝えていきます。昂生さんの存在をきっかけに、チーム全体が互いを認め合いながら成長できる環境になっているそうです。

同じ野球部に所属する双子の弟・悠生さんも、「昂生はマネージャーとして野球部のために一生懸命頑張ってくれています。」と語ってくれました。

「入部して一番嬉しかったことは、



部員のプレーを観察し、改善点を提案。声出しなども積極的におこなっています。



全員野球で勝利をつかみ取ります！

取材日：令和7年1月

市の総合体育大会で一勝し、みんな喜びを分かち合えたときです。」と昂生さん。今の目標は県大会出場とのこと。「今はチームのみんなが同じ方向を向いています。一人でも違う方向を向くとチームとしてまとまらなくなってしまう。だからこそ、しっかり情報を共有し、チーム一丸となって成長していける団結力を大事にしていきたい。」と今後の展望を話してくれました。

最後に、昂生さんは「やりたいことがあっても、悩んで踏み出せないことはあると思います。でも、悩むのではなく、一歩踏み出して“やってみる”ことを大切にしてほしいです。」と思いを語ってくれました。

南さつま市立大笠中学校
〒897-1201
南さつま市大浦町 24524 番地 1
TEL：0993-62-2012 FAX：0993-62-2051

